

第 37 回 生物多様性研究センターセミナー

- 日時：平成 27 年 1 月 21 日（水） 午後 7 時より
- 場所：名古屋市立大学 山の畑キャンパス 4 号館大講義室
- 講師：松原 和純 氏（名古屋市立大学・システム自然科学研究科・研究員）
- 題目： 爬虫類における性染色体・性決定機構の進化

爬虫類は、哺乳類や鳥類と共に羊膜類（発生の初期段階に胚が羊膜をもつ動物の総称）に含まれる分類群であり、カメ目、ワニ目、ムカシトカゲ目、有鱗目の 4 目からなります。哺乳類と鳥類ではそれぞれの分類群内で性決定機構が保存されているのに対して、爬虫類では多様な性決定様式がみられます。ムカシトカゲ目とワニ目の全ての種、カメ目の多くの種、有鱗目の一部の種は、胚発生時の温度によって性が決定される温度依存性決定（Temperature-dependent sex determination、TSD）をもち、これらの種では核型に雌雄差はみられません。その他の種では遺伝的に性が決定され（遺伝性決定、genetic or genotypic sex-determination、GSD）、雄ヘテロ型（XX/XY 型）の性染色体をもつ種と雌ヘテロ型（ZZ/ZW 型）の性染色体をもつ種がいます。カメ目と有鱗目には TSD をもつ種、XX/XY 型の性染色体をもつ種、ZZ/ZW 型の性染色体をもつ種が混在しています。これらのことから、爬虫類の系統分化の様々な段階で性決定様式の変遷が起きたと考えられます。私は爬虫類における性染色体や性決定機構の進化過程について研究を進めており、本セミナーでは最近の研究成果をお話しします。

山の畑キャンパスへの道順：<http://www.nsc.nagoya-cu.ac.jp/location.html>

問合せ先：熊澤 慶伯（名市大システム自然科学研究科、電話：(052)872-5844）